

今月の スポットライト Spotlight

なぜ社会保険労務士になろうと思ったんですか？

人を大切にする 企業づくりをサポート



橋口剛和社会保険労務士事務所
所長
橋口 剛和さん

宮崎北支部

私は日向市出身で、1980年に立命館大学法学部法律学科を卒業しました。卒業後は、宮崎市内で書店勤務しながら、大学時代に学んだ法律をいかにため自らの道を考えていました。そんな時、弁護士、司法書士などの資格があるということは知っていましたが、知人の川崎光さん（社会保険労務士法人OWL 宮崎北支部）が「社会保険労務士の資格を持つと活躍していることを知り、自分も社会保険労務士になって自立しよう」と心に決めました。

1991年、社会保険労務士試験に合格し、1992年7月1日、私が社労士をめざすキッカケとなった川崎さんの事務所の一室を借りて事務所を開設しました。川崎さんは当時宮崎同友会の会計監査をされていたこともあり、

当時の宮崎同友会では、立ち上げメンバーの岩切承目さん（岩切切書店会長・宮崎南支部）、岡崎優さん（功労会員）、川口敦己さん（有価証券社社長・宮崎北支部）、小村勝利さん（現在、小村剛さん（南小村自動車サービス社長・宮崎南支部）が会長）、中村健一郎さん（南財務経営サービス社長・宮崎北支部）達が中心になって、同友会運動に邁進していました。

私は社労士としての専門分野以外に、経営者の生の声が聞きたかったので、社長達との交流機会がある同友会第1期入会メンバーに名を連ねさせてもらいました。

同友会に入会してからは、例会等

同友会での学びが経営にいかされていることは？

広報戦略委員会の役得は、様々な会員さんと広報誌のインタビューを通してじっくりと話を聞けることにあります。今回は、同友会歴34年の社会保険労務士の橋口さんでした。最近では少し同友会の活動から遠ざかっていますが、私が入会した頃すでに役員として頑張っておられました。社会保険労務士の仕事に理念が同友会の理念に合致しているのだという話を聞かれました。「宮崎同友会 30周年のあゆみ」が刊行されたこの時期に橋口さんの記事が広報誌に掲載されることに何かしらの縁を感じるインタビューでした。



橋口剛和社会保険労務士事務所
住所 / 宮崎市堀川町109-5
TEL / 0985-29-5377
FAX / 0985-29-5378
事業内容 / 社会保険労務士業

DO YU 活動ズームアップ

〔宮崎北高校〕 地域企業研究発表会



今回で4年目となる「地域企業研究」。1月28日に生徒さんが聞き取りした内容をもとに、発表会が行われました。今年度は、「中小企業の意義」「働くこととは」を33社に伝えてもらいました。生徒さんからは、各企業のマスコットや新商品の提案などもあり、協力企業の方々の表情も晴れ晴れしていました。

〔宮崎第一高校〕 課題研究発表会



12月11日、宮崎第一高校にて「課題研究発表会」が行われました。今年は18社の企業に協力していただきました。各グループからの発表では、協力企業の特徴をうまく捉え、めざせるSDGsのゴールについて発表されました。参加者に質問しながら進行するなど各グループ発表に工夫が見られました。

〔都城工業高校〕 インターンシップ



10月28日～30日の3日間、10社で19名の都城工業高校生を受け入れてのインターンシップを開催。インターンシップ受け入れの2か月の前には、プログラム作成研修会を行い、生徒が体験したいことを選べるように事前に学校へ提出しました。受け入れた企業からは「社員の新たな一面が見られた」「若者を受け入れるための課題が見つかった」との声が寄せられました。

＼新着まだまだ、たくさん活動しています！/
活動内容は同友会
Facebookでも配信中国！！



1月理事会報告

日時：1月29日（木）17:00～20:20 於：宮崎市民プラザ&Zoom
理事29名中24名出席（出席率82.8%）+新年度理事予定者1名+事務局2名

- 前回理事会以降、1月29日までの3名の入会申し込みと3名の退会申出を承認しました。会員数は445名。
昨年11月に宮崎北支部から提案された功労会員の規定見直しについて、手続き規定をもちこんだ内容に修正することを確認しました。また、推薦のあった土持秀男氏を功労会員とすることを承認しました。
- 会員増強について、迎組織強化推進協議会会長からは「今週の月曜日に岩手同友会が500名を達成した（期首432名）」という知らせがありました。地方の同友会として経営環境等、岩手と宮崎は似ています。岩手の実績は宮崎でもできると教えてくれています。宮崎同友会も経営者の団体として目標を達成し、未来をかえていこうと呼びかけがあり、25年度期末必達会員数として各支部から下記の表明がありました。
県北支部59名、ひむか支部31名、宮崎北支部120名、宮崎南支部79名、きりしま支部160名 合計449名（期首に確認した期末目標は505名）。これを受けて杉村理事からは「一般社団法人となる5月の設立総会までに500名を実現しよう」と発議があり、それを目標に行動していくことを申し合わせました。
- 2026年度理事・監事予定者選考委員会から、推薦名簿の報告があり、人が育つ会社づくり推進協議会からは、3月23日開催の役員研修会の内容の説明がありました。
- 25年度活動の振り返りの骨格について、事務局から資料の説明がありました。
- 総務財務委員会の弥富委員長に代わって那須代表理事より資料をもとに「25年度決算の見通しと向こう3年間のシミュレーションについて」報告があり、厳しい財政状態にあることを確認。弥富委員長からの要請のあった「健全財政にむけての見通しについて、理事会としての議論を」については、2月理事会で議論することを確認。
- 2026年度活動方針の骨格案について、資料をもとに那須代表理事から説明と提案があり、グループ討論を行いました。グループ討論では、来期の4つの重点活動項目を確認。方針のスローガンとして検討を要請された「地域に1億円企業を100社つくる」については、趣旨は理解しつつも表現の見直しを求める意見が多かったです。グループ討論の意見をふまえて修正を確認。各組織では県方針としての重点項目を踏まえて活動方針を作成すること、2月理事会での全体意見交流にむけて、2月20日までに振り返りと活動方針の1次案を提出することを確認しました。
- 「第35回定時総会」の準備について、組織強化推進協議会化の提案をもとに、総会当日のスケジュールと司会や議長等の役割分担を確認。各支部で役割の担当者を決めて2月理事会に報告することを申し合わせました。
- 法人化の準備についての「定款（案）」について、11月理事会での質問や意見、12月に公証人役場のチェックにより、いただいた意見をもとに、1月19日開催の第7回準備委員会で検討結果の説明があり、定款（案）の内容を確認。今後のスケジュールは下記の通りです。
e.doyu掲示板アップ及び2月広報誌に同封し、2月幹事会及び会員から、2月末を締切として定款（案）の意見集→3月5日の特別委員会で意見対応を検討→3月理事会（3月25日）に報告・提案→3月理事会で定款案の承認後、公証役場へ認証手続き
- 第35回みやざき中小企業経営フォーラムの準備について、立山実行委員長より下記3点について報告と要請があり、対応を確認しました。
①副実行委員長は、塩谷氏（県北）、田中（陽）氏（ひむか）、十川氏（宮崎北）、井久保（光）氏（宮崎南）、永峰氏（きりしま）に決定。
②各支部より、副実行委員長以外に下記の人数の実行委員長を2月20日までに選出してほしい。
県北支部2名、ひむか支部1名、宮崎北支部5名、宮崎南支部3名、きりしま支部5名
③第1回実行委員会は、2月27日（金）17時より、同友会ネットワークセンターとZoomのハイブリットで開催。
- 地域づくり推進協議会より新春経営者交流会の参加者数について、下記の通り報告がありました。収支については、次回理事会で確認します。
第1部 会員75名+社員3名+ゲスト1名+来賓5名+田中氏=85名
第2部 会員60名+ゲスト1名+来賓8名+田中氏=70名
- 資料をもとに前回理事会（12月23日）以降の活動の経過報告を確認しました。
- その他
①青年部会より、7月に宮崎で開催する九州沖縄ブロック合同例会の分科会報告者の一人として小原農園の小原拓也氏を推薦したいと提案があり、2月20日ブロック会議への提案を了承しました。
②「宮崎同友会30年のあゆみ」が中小企業家しんぶん1月25日号で紹介されたことの報告がありました。販売価格について検討し、製作原価をふまえて宮崎同友会会員の2冊目以降は6,000円、会員以外は8,000円とすることとしました。



宮崎同友会共育ち活動の新たなスタートへ — 三位一体経営の深化に向けて —

宮崎同友会では、「人が育つ会社づくり（三位一体経営）」の柱である共育ち活動の停滞を受け、2024年5月から1年半にわたり準備会形式での再生に取り組んできました。

第1年度（2024年7月～2025年4月） の取り組み

準備会運営会議は11回開催され実践交流会や中堅幹部社員との研修会などを企画。

実践交流会は8月と10月の2回開催し、「人を輝かせる会社へ」のテーマで（株）ハラケアシステムの原秀直社長、「仕事に誇りと喜びを～働く人がいなくなる時代の経営」のテーマで（有）サンエクの白川良一会長が報告。採用と育成を一体で捉える重要性や、社長の思いが育成の成果を左右することが共有されました。

社長と中堅・幹部社員を対象とした2日間研修では、「自社の存在意義の自覚」「仲間と目標を共有する」ことをテーマに、理念共有の深まりが中堅・幹部の成長の鍵であることが確認されました。

第1年度をふりかえる準備会では、共育ちをめぐる意見交換も行いました。その中では、会員が抱える社員教育への不安や、経営者と社員の成長イメージのズレ、研修の必要性を認めながら実施できない現状など、多くの課題が浮き彫りになりました。特に企業における「社員教育に対する自信喪失」は深刻で、実践交流が自信回復の場として機能していることが指摘されました。

三位一体経営のポイントと課題

この1年半の準備活動から見てきたことは次の通りです。

- 「三位一体経営」は現代的課題を担っている。企業の雇用は地域社会持続の条件であり、企業における育成は地域社会を担う主体者として（社長と社員が、社員同士が）育ちあうことにある。
- 「三位一体経営」の核は「人」である。人が中心であり、主人公である。社長も社員も共に主人公として育っていく。
- 「共に育つ」基盤は経営者の思い（リーダーシップ）にあり、共に主人公として育ちあうためには《自主・民主・連帯》の精神が基盤となる。
- 人が育つ会社づくりの要は中堅・幹部の自覚およびその成長がカギになる。その自覚のポイントは自社の存在意義の自覚＝経営理念の共有の高まりにある。

以上のことと踏まえ、次のように課題を整理しました。

- 会員と委員会が考える社員教育にギャップがある。
- 多様化する働き方や若者との考え方のギャップもあって、経営者が雇用・育成について消極的になっている。
- 中小企業の多様化・多層化の進行もとの、三位一体経営＝人が育つ会社づくり運動のとらえ方の相違

第2年度（2025年4月～10月） の取り組み

第2年度は8回の準備会を開催。2回の実践交流会では、6月「入社3年目の事業継承者が創業60年目の岐路に立つ」のテーマで巴設備工業（株）の下水流匠社長が、8月「順調と思ってた『採用』と『共育ち』の苦悩」のテーマで（株）凌駕の長嶺光秀社長が報告。この実践交流会では、事業承継の葛藤や採用・育成の苦悩をテーマに議論が深まりました。啖啄同時、全社一丸、成長戦略と育成プランなど、共育ちの核心に迫る意見交換が行われたのも、2年目の取り組みからでした。

10月には、前年度に行った中堅幹部社員研修会のフォローアップを行いました。「育てることに心をつくす会社づくり」をテーマに講義と交流を実施。参加者の「決意文」には、中堅・幹部としての自覚の高まりが見られました。

「三位一体経営を深める会 ～共に育つ会社づくりを軸に～」 の開催

準備会1年半の取り組みのまとめとして12月に、広く会内に呼び掛け、18名の参加で三位一体経営の現状とこれからどのように深めていくかを交流しました。

そこで確認できたのは、同友会の「共に育つ」の原点は例会にあるということです。例会のグループ討論が経営者同士の「共に育つ」場になっているかどうか—このことは単に社員教育の問題だけではなく、同友会全体が「共に」の精神を置き去りにしているのではないかの問いかけにもなります。

当初予定した2026年1月の共育ち委員会の再スタートには、もう少し時間が必要だと推進協議会では話し合いました。協議会が中心となって、「三位一体経営」「共育ち」を深め、会内に広げると同時にそれを担っていくリーダーとの育ちあいの機会をつくっていくことが必要だと確認しました。



いました。しかし、最新の真空機を導入したことで、このボトルネックが解消され、生産能力は一気に3倍へと向上。「つくる力が大きく変わったことは、今後の展開を考えるうえで極めて大きい」と川越氏は話します。

一方で、原料費の高騰に値上げが追いつかず、赤字幅が拡大。営業を担当するのは川越氏ただ一人で、販路拡大や深耕に必要な時間を確保しきれない状況が続いているそうです。能力が整っても、それをいかす体制がなければ成果は生まれません。同社が



新工場稼働で生産能力は3倍へ
「原価高騰と『営業マン不在』の壁を
どう乗り越えるか」



(株)みやざきサンミート季穂
代表取締役社長 川越 泰代さん

〔ひむか支部〕

児湯郡木城町——山あいを抜ける県道沿いに、(株)みやざきサンミート季穂の新工場が静かに姿を見せる。まわりにほとんど建物がなく、澄んだ空気と緑が広がるそのたたずまいは、同社がこれから描く未来への静かな決意を映しているようである。

創業から10年。食肉加工を中心に、プロイラー7万羽・豚1,200頭を扱う農業部門や惣菜店と、多角的な経営を続けてきた川越氏。今年、新建設という大きな節目を迎えたことで、体制整備は一段上の段階へと進んでいます。しかし、これまで見えなかった課題が輪郭を帯び、経営者として新たな覚悟も問われ始めています。

直面する最大の課題は、まさに「売る力」の再構築にありました。

新工場の稼働とともに、衛生管理や記録業務は従来にも増して増加。終業後に2時間を要する日もあり、手作業の限界は明らかです。デジタル化を検討し見積もりを取ったところ、ソフトウェアのみで約800万円。さらに必要となるハード機器まで含めれば、総額はさらに高額となります。導入には慎重な判断が求められます。効率化への必要性と投資余力の狭間で揺れる姿は、多くの中小企業が抱える共通の現実でもあります。

来期の展望
「器を満たすための営業体制へ」

生産能力という大きな器は整った。次に求められるのは、その器を売上という成果で満たすこと。川越氏は来期、長年工場長を務めてきた社員を一部営業へと配置転換する構想を描いていました。「役割変更は容易ではないが、会社の将来を考えたとき、避けて通れない決断でもある」と語る川越氏。

創業以来掲げてきた「生産者が正當な価値で儲かる仕組みをつくる」という理念を真に実現するためには、

新工場の稼働とともに、衛生管理や記録業務は従来にも増して増加。終業後に2時間を要する日もあり、手作業の限界は明らかです。デジタル化を検討し見積もりを取ったところ、ソフトウェアのみで約800万円。さらに必要となるハード機器まで含めれば、総額はさらに高額となります。導入には慎重な判断が求められます。効率化への必要性と投資余力の狭間で揺れる姿は、多くの中小企業が抱える共通の現実でもあります。

事務作業とデジタル化
—投資判断の難しさ—

+

新工場と3倍の生産能力、
その先にあるもの

旧工場は手狭で、冷凍庫不足や作業動線の課題が常に残っていたそうです。新工場ではレイアウトを見直し、会議室や休憩所の配置を工夫するなど、現場が働きやすい環境を整えました。これまで外部に頼っていた冷凍コンテナの苦勞も解決。味付けや袋詰めは順調でしたが、真空作業だけが滞り、製造全体の効率を下げて

任せる経営がつくる
「自立した現場」

農業部門では、日々の報告や作業記録はすべてLINEで共有され、川越氏は数字と状況を見ながら判断を行っています。遠隔でありながら、現場の主体性を引き出す仕組みが確立されています。

特にプロイラー部門では成果報酬制が奏功し、「努力が正當に評価される」働き方が社員の意欲を支えているそうです。一方で、自然相手の仕事ゆえに「肌で感じる判断」も欠かせません。鳥の状態を見ながら休む時期を自ら決めるなど、現場には職人的な感覚も芽生えています。若手社員の育成にも力を注ぎ、失敗を糧にしながら組織としての強さを積みあげようとしています。

営業体制の強化が不可欠。新工場は、単なる設備拡張ではなく、次の10年を切り開くための「器」そのものである。この器をどれほど満たし、地域にどれだけ価値を還元できるか—その答えは、これから始まる取り組みの中にあります。

川越氏はこれまで、営業として奔走する日々の中で、同友会の活動からやや距離を置かざるを得なかったという。しかし近年、改めて学びを深めたいとの思いが強くなり、例会や行事への参加を再開された。経営者としてもう一段視野を広げたいという静かな意志が、その言葉の端々から伝わってきました。

そして来たる2月24日、ひむか支部では川越氏を報告者とし、工場を見学する見学会を企画。新工場の仕組み、農業と加工の両輪、地域に寄り添い価値を生み出す姿勢—川越氏が歩んできた道のりを、実際の現場を通して学ぶことができる貴重な機会と楽しみにしています。

(株)みやざきサンミート季穂

住所/ 児湯郡木城町大字高城4476-10
TEL/ 0983-32-2911 FAX/ 0983-32-2912
事業内容/ 食肉販売業(牛肉・豚肉・鶏肉)

取材
(有) 日高設備工業 日高憲一郎

赤ちゃん誕生!!
おめでとうございます

1/8

御別府損害保険事務所
代表取締役
別府 昭人さん
(きりしま支部)に
第1子
(長男) 海音くん
が誕生しました。

広報誌にチラシを同封しませんか？

宮崎同友会会員限定で広報誌にチラシを同封することができます。チラシは、お送りしたい月の前月末までに事務局にお送りください。自社での取り組み、やっていることを他の仲間にも知ってもらいましょう。

チラシの封入は **1部 10円** です。
会員460名に封入する場合は、
460名×10円で4,600円になります。
ご自身の所在支部のみ、特定の支部だけに
封入することも可能です。
同封をお考えの方は一度事務局までご連絡ください。



(社福)弘成会

理事長 齊藤 弘泰さん (52歳)

私共『社会福祉法人弘成会』は、「となりの人もみな家族」の精神で、地域のご高齢者のより豊かな生活のためのお手伝いを行うための施設や事業所を運営する法人です。派手さはありませんが「あたたかく」「やさしい」サービスをご提供しています。

〒児湯郡高鍋町大字上江6956番地2
TEL / 0983-22-0225 FAX / 0983-22-0316
事業内容 / 社会福祉業

(株)ライフリンク県北店

代表取締役 西村 聖さん (46歳)

「人生(Life)」の真ん中にある「もしも(if)」から(保険を通じて)お守りすることをモットーにしている保険代理店です。宮崎市、日南市、日向市の3つの代理店が一つとなって出来た会社で、当社はその中の県北代理店となります。

〒日向市比良町3-15
TEL / 0982-53-2092 FAX / 0982-56-1820
事業内容 / 保険代理業

NEW FACE	
県北支部	57名
ひむか支部	30名
宮崎北支部	123名
宮崎南支部	78名
きりしま支部	157名
合 計	445名

※2026年1月30日現在

「宮崎同友会30年のあゆみ」に学び、 地域とともに豊かな未来をひらこう ①

昨年11月10日に発行された宮崎同友会の30年史「地域とともに未来へ 宮崎同友会30年のあゆみ」。会員の皆さんにはもとより、各地同友会や講師としてご来宮いただいた方々にもお配りしており、宮崎同友会の33年間の歩みとその記録に、様々な感想が寄せられています。中小企業家しんぶん1月25日号で紹介されました。

どんなところに興味を惹かれ、どう活用していったらいいか。シリーズで感想等をご紹介します。

今を見つめ、未来を考える書

(株)コダマ
代表取締役 児玉 和憲氏 (県北支部)



30年史発刊の企画を最初に聞いたのは、高校の同級生である(株)金丸慶蔵商店 金丸社長の嘆きでした。

金丸社長は、『ものすごい大事業の委員長を引き受けてしまった』と嘆いていましたが、会歴も浅い私は、笑いながら「あんたやったら何とかなるが」と軽く笑い飛ばしていました。編集中に『もう俺はしばらく役員をしたくない』と愚痴をこぼしたり、带状疱疹を発病させたりしている金丸社長をみながら、『大げさだなあ』と思いながらも『編集作業って何をやっているのだろう』と思っていました。

2025年11月に完成した『地域と共に未来へ 宮崎同友会30年のあゆみ』を手にとって、内容の深さに驚きながら、編集委員の皆様をないがしろにはできないと思い、しっかりと熟読させていただきました。

前記の通り、会歴の浅い私には第1編、第2編、第3編までは雲の上の方々の話というか『こんな時代を踏まえての今何だなあ』という感覚でした。そんな中でも、すでに第1期の活動方針

34年のフォーラムの歴史を訪ねて

第35回みやざき中小企業経営フォーラム実行委員長
ピシャット内装 代表 立山 智洋氏 (宮崎北支部)



第35回フォーラムの開催にあたって34年間続くフォーラムの歴史を、「宮崎同友会30年のあゆみ」を通じて学ばせていただきました。

最初に感じたのは第1回フォーラムの土田実行委員長から第34回の小原実行委員長までの34名の実行委員長が悩みに悩んでフォーラムの「テーマ」を決められたのだろうということでした。これは私自身がフォーラムの開催意義、テーマについて思索している最中だからかもしれませんが、それぞれの時代背景や実行委員長のキャラクターも垣間見えて非常に刺激になりました。また同友会が主催する様々な取り組みがフォーラムをキッカケに始まっていることに衝撃を受けました。例えば第20回フォーラムを通じて「宮崎県中小企業振興基本条例」の制定に繋がったり今日まで続く「産学官連携MANGO」設立のキッカケになったりと様々な取り組みが生まれてきたことを初めて知りました。

全体を通して、第1回フォーラムから引き継がれてきた「多くの

会員や地域の経営者が集まる、地域に開かれた同友会の催し」という想いを通して、なぜ中小企業家経営フォーラムではなく中小企業経営フォーラムなのか学ばせていただきました。

さらにフォーラムのルーツを知りたいと思い第1回実行委員長の土田歯科医院の土田歯科医院の土田先生をお尋ねしてお話をさせていただいたのですが、実際お話しされたのは経営のお話がほとんどでした。「なんてストイックな経営者なのだろう」と思うと同時に気づかされたのは「フォーラムを成功させるためのフォーラムはいかん」ということです。それまでフォーラムに何人動員すれば成功といえるのだろうかと考えていたのですが、「なんのために」がやはり大事です。

35回フォーラムを通して、よい経営者を目指す方が増えより会社が成長させさらに宮崎を盛り上げていくためにも本気本音で経営の事を語れるフォーラムづくりをめざして参ります。